

3. 地域と連携した地域防災力の向上

横田崇・正木和明・倉橋奨・小池則満・橋本操

1. 概要

平成28年度は、次の機関等との連携を推進し、地域防災力の向上及びそれに係る調査等を行った。

- ・ 豊田市及び豊田市消防本部
- ・ 瀬戸消防署
- ・ 南知多町
- ・ 田原市
- ・ 志摩市
- ・ 愛知県防災局

なお、南知多町における連携及び愛知県防災局との連携については別途報告を参照頂きたい。

2. 豊田市及び豊田市消防本部との連携

豊田市とは、平成25年に本学との包括的連携に関する協定を締結しており、本学が位置する地元でもあることから、防災に関する活動を積極的に進めている。

(1) 地域防災カルテ報告会

豊田市の受託研究として、平成28年度に、豊田市の28校区における地域防災カルテの基礎版を作成した。この地域防災カルテの基礎版には、これまで豊田市で作成してきた地震、洪水、土砂災害におけるハザード、想定される被害を地図上に示し、現在の標高図、地形図、地質図と重ねて表示し、それぞれの地区において危険な箇所等も記載できるようにしている。また、明治或は大正期マップとも重ねて表示できる機能を持ち、各校区の地理的・地質的な特徴等に加え、土地改変による危険箇所の把握も容易に行えるようにしている。

各地区における防災力の向上には、各地区の住民が参加し、危険箇所の把握及び避難ルート等を把握・作成することが重要となる。このため、平成28年度は、この地域防災カルテの基礎版を用いて、各地区における避難マップ等の防災カルテを作成するため、梅坪地区、花園地区、

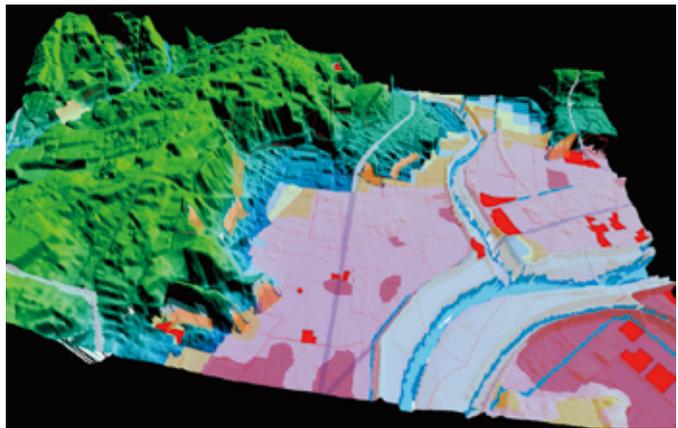


図1 防災カルテの表示例

小渡地区の3地区をモデルケースとして、地域の方々に参加いただいたワークショップを開催した。ワークショップでは、実際に「まち歩き」も行い、各地域における災害に脆弱な地点や危険箇所等を点検し、地域住民の方が中心となって避難マップを作製した。

平成29年度は、これら3地域でのワークショップの成果の報告会を実施した。今後、防災カルテを用い、各地区での防災力の向上のための検討が進むことをものとする。

(2) 豊田消防本部との連携

豊田消防本部では、機能別消防団の強化の一環として、高校生消防クラブを発足することとし、平成29年6月11日に、愛知工業大学地域防災研究センターで発足式を開催した。発足式には、豊田市長が出席し挨拶をおこなうとともに、正木客員教授が防災についての講演を行った。

また、豊田市の消防職員を対象とした研修にも講師として参加しており、平成30年3月8日には、密集地火災について、過去の大火の事例を交えて講演を行った。



写真1 講義の様子

3. 田原市との連携

今年度も引き続き、渥美半島におけるサーファーの津波避難訓練に参加した。訓練は、市役所防災担当の職員その他、警察、消防等の関係者及び地元サーファーの有志で結成される「なみのり隊」の協力のもと、6月18日（日）10時から、田原市弥八島ロングビーチ海岸で実施された。訓練は、サーファーの方が実際に避難場所にまで避難する訓練と、それに引き続き行われる防災の啓発活動の2部構成で行われた。今年度は、訓練全体の講評を、地域防災研究センター長が行った。

訓練では、約20名のサーファーの方に、腕時計型のGPS測定装置を持って頂き、サーファーの避難経路と避難時間の詳細を調査を行った。また、避難の状況の全体像を把握するため、小型のドローンで上空から避難の状況を撮影した。図2に、今回の訓練のGPSで得られた避難ルートを示す。

今回の訓練では、サーファーの全員が弥八島海浜公園に避難する訓練を行った。これは、サーファーの方に、サーフィンを止めて海岸に上がって貰うための訓練と、訓練終了後の啓発活動を一か所で実施するためである。弥八島海浜公園は、本来であれば、図に示す「エリア1」のサーファーが避難する場所であり、「エリア2」及び「エリア3」の方は、それぞれ国道42号線上に避難場所が設定されている。実際、今回の訓練では、エリア1の方は、概ね8分以内の避難できており、津波が来襲する前に避難が完了していることとなる。しかし、エリア2及びエリア3の方は、避難に12～16分を要しており、津波に襲われることとなる。訓練の際にも、本来の避難場所への避難をと呼びかけていたが、実際の避難場所の周知が重要である。



図2 田原市弥八島ロングビーチにおける津波避難訓練の避難ルート

4. 志摩市市との連携

今年度から、志摩市と連携し、志摩市国府海岸でのサーファーの避難訓練に参加することとした。訓練は、当初7月30日に予定されていたが、台風の影響により海岸での高波が予想されたことから中止になり、11月19日(日)に抜き打ちでの津波避難訓練を実施することとなった。

訓練内容は、抜き打ちで行うことから、サーファーの方は海から上がり海岸の堤防までの避難とした。抜き打ちでの訓練ではあったが、これまでの訓練での成果が表れ、海岸に来ていたすべてのサーファーが全員避難し、早いグループは避難開始から概ね3分程度で、遅いグループでも6分程度で堤防までの避難を完了した。

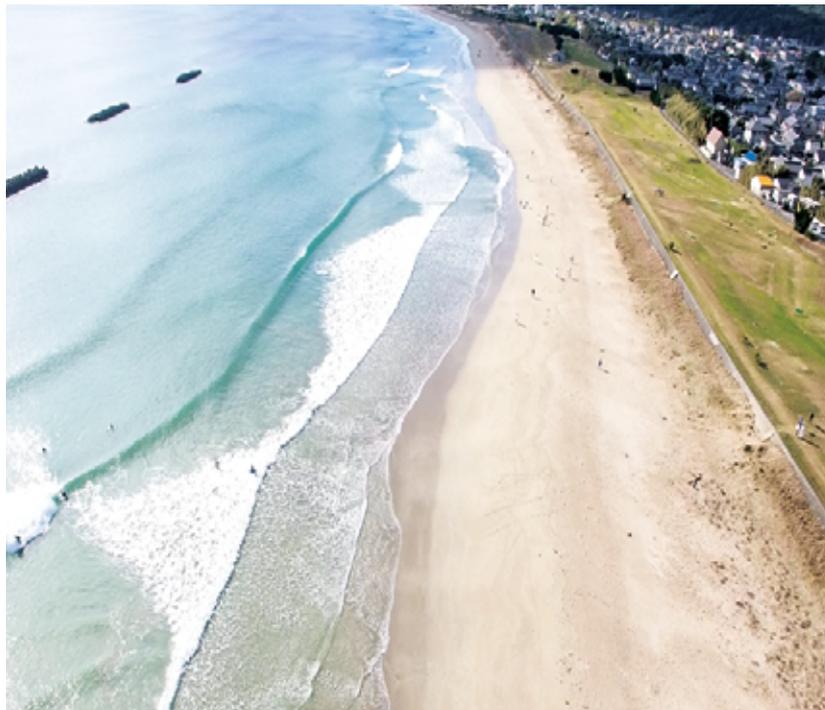


写真2 志摩市国府海岸でのサーファーの避難訓練の様子